

強者の戦略

こんにちは、国語科の松崎です。この間はじまったばかりと思っていた二〇一五年も、もう半分が過ぎました。入試に向けて後悔することが無いように、夏までに自分の課題を見つけて下さいね！今回は昭和61年、奈良女子大学の問題です。

つぎのA・Bの二つの文章は、いずれも平定文(平中)についての説話の一部である。後の問に答えよ。

A 今は昔兵衛の佐平の定文といふ人有りけり。字^{あざな}をは平中^{へいちゆう}となむいひける。品^{しな}もいやしからず、形有様もうるはしかりけり。けはひなども物いひもをかしかりければ、そのころほひ、この平中に勝れたる者世に無かりけり。かかる者なれば、人の妻^め、娘いかにいはむや、宮仕へ人は、この平中に^①物いはれぬは無くぞ有りける。然る間、その時に本院の大臣と申す人おはしけり。その家に侍従の君といふ若き女房有りけり。形有様めでたくて、心ばへをかしき宮仕へ人にてなむ有りける。平中かの本院の大臣の御許に常に行き通ひければ、この侍従がめでたき有様を聞きて、年来えもいはず身に替へて懸想しけるを、侍従消息の返事をだにせざりければ、平中、歎き侘^わびて、消息を書きて遣りたりけるに、ただ、見つとばかりの二文字をだに見せ給へと、くり返し^②泣く泣くと書いて遣りたりける使の、返事を持ちて帰り来たりければ、平中^③物に当りて出会ひて、その返事を急ぎ取りて見れば、わが消息に、見つといふ二文字をだに見せ給へと書いて遣りたりつる、その見つといふ二文字を破りて、薄様に押し付けて遣りたるなりけり。平中これを見るに、いよいよ妬^{ねた}く侘しき事限りなし。

(『今昔物語集』による)

B 今は昔、兵衛佐定文をば平中といふ。色好みにて、宮仕へ人は更なり、人の妻など、忍びて見ぬはなかりけり。思ひかけて文やる程の人の、なびかぬはなかりけるに、本院侍従といふは、村上の御母後の女房なり。^④世の色好みにてありけるに、文やるに、憎からず返事はしながら、逢ふ事はなかりけり。

(『宇治拾遺物語』による)

問一 A・Bの文章を比較すると、平中の求愛に対する侍従の反応が異なっていることがわかる。その相違をのべよ。

問二 傍線部(1)・(3)を解釈せよ。

問三 傍線部(2)の「泣く泣く」を「泣き泣き」と変えると、どのように意味が変わるか、わかりやすく説明せよ。

問四 Aの文章で、侍従は平中に対してどのような返事の仕方をしたのか、本文に即して具体的に説明せよ。

問五 傍線部(4)の「世の色好みにてありけるに」について、

(イ)「世の色好み」とはどういうことか、説明せよ。

(ウ)「色好み」ならば、普通、どのような態度をとることが予想されるか、説明せよ。